

循環器診療コンプリートシリーズ シリーズ刊行にあたって

わが国において循環器疾患は悪性新生物（腫瘍）に次ぐ死因であり、2019年人口動態統計によると、7人に1人が心疾患（高血圧性を除く）により死亡しています。この割合は約20年前の1998年のそれとほぼ同じですが、死亡数と死亡率ともに増加しています。

このような現状を鑑み、2018年に『健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法（脳卒中・循環器病対策基本法）』が制定、2019年に施行されました。同法の基本理念の一つに、「循環器病を発症した疑いがある者の搬送および医療機関による受入れの迅速かつ適切な実施、循環器病患者に対する良質かつ適切なリハビリテーションを含む医療」が挙げられ、今後の循環器診療における重要性を物語っています。

超高齢社会に突入したわが国では、総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2020年推計において28.7%（3,617万人）と、過去最高となっています。同時に、高齢者人口の割合は201の国と地域において世界最高です。国内では、激増する心不全をはじめとする循環器疾患の患者への対応に迫られています。

このため、循環器専門医のみではなく多くの一般内科医が心不全そのものに対する理解に加え、その基礎疾患である虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、不整脈、先天性心疾患などに対するトータルな理解が必要な時代になりつつあります。一方、医療の進歩に伴い、医師は診療科目の専門性を高めていくことが一般的です。

しかし、実際の臨床現場では、一つの専門分野からの視点のみでは対応が十分でないことが多々あります。例えば、循環器疾患患者の診療に際し、慢性腎臓病や脳血管疾患の併存がしばしば認められます。逆に、循環器専門医は、腎臓内科や脳卒中内科の先生方から、併存する循環器疾患についてコンサルトを受けることが度々あります。いわゆる「心・腎・脳連関」であり、患者を疾患別に診るのではなく、まさしく「一人の患者としてトータルで診ること」が求められています。

これらのニーズに応える実践書として、『コンプリートシリーズ』を発刊する運びとなりました。このシリーズには、大きな特徴が二つあります。

一つ目は、本シリーズは、『心不全』、『心筋症』、『不整脈』、『先天性心疾患・肺動脈疾患』、『弁膜症』、『虚血性心疾患』より構成されており、若手の循環器内科医や循環器疾患の診療に携わる医師にとって必要な最新の知識が「網羅」されていることです。

二つ目は、心腎脳連関の観点から腎臓専門医、脳卒中専門医からのアドバイスが全項目の随所にあり、臨床現場のやりとりを紙面上でvividに再現しています。この点は他書に類を認められず、診療科をつなげ、まさしく「一人の患者としてトータルで診ること」に役立つ、新しいコンセプトの実践書であると自負しております。

本シリーズが臨床の最前線で活躍されている若手循環器内科医をはじめ、循環器疾患の診療に携わる内科医、研修医にとって最新の実践書となることができれば、シリーズ総編集・編集委員・執筆者にとって望外の喜びとするところです。

2021年3月

編集委員を代表して
南野哲男

序文

本書は、循環器疾患の中でも「不整脈」にフォーカスしています。「不整脈」は高齢化社会の進行とともに患者数も増え続けており、臨床の現場で必ず遭遇する疾患です。不整脈疾患は直接見ることができず、心電図で判断しなくてはならないため、心電図が苦手ととつきにくいと感じていらっしゃる方も多い領域です。一方で、薬物治療や不整脈デバイス、カテーテルアブレーションなど、さまざまな進歩が著しく、治療できる範囲が広がり続けており、学んでみると楽しくエキサイティングな領域でもあります。

本書は研修医から不整脈専門医を目指す若手循環器内科医の先生方、循環器専門医を対象としており、基本的な知識から解剖、不整脈デバイス、カテーテルアブレーション、稀ではありますが臨床的に重要な不整脈疾患に関する一步踏み込んだ内容も網羅しています。臨床の第一線で活躍されている先生方に吟味いただき、不整脈分野の膨大な情報の中から厳選した実践的な内容を執筆いただきました。

腎臓と脳卒中の臨床経験が豊富な専門医からアドバイスをいただいていることも本書の大きな特徴です。心臓・腎臓・脳の3つの臓器はリスク因子が共通しており、疾患をしばしば合併するため、臨床上也強く相関しています。最前線で不整脈診療にあたる先生方が、日常臨床で疑問に思うこと、皆に知ってほしいことを挙げていただき、腎臓・脳卒中専門医の先生方に分かりやすくお答えいただきました。日常臨床ですぐに役に立つ、実践的な内容となっています。

不整脈疾患は患者自身が治療効果を実感しやすく、治療が上手くいくと大変喜んでもらえる疾患です。本書により、「不整脈診療の楽しさを知る医師」と「喜んでもらえる患者」が一人でも多く増えてくれることを祈っております。

今回、刊行にあたり執筆してくださった先生方、ならびに企画から編集までサポートしてくださった香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学 教授の南野哲男先生、株式会社学研メディカル秀潤社の吉安俊英さま、谷口陽一さまに紙面を借りて御礼申し上げます。

2021年8月

大阪医療センター 循環器内科 不整脈センター長
井上耕一